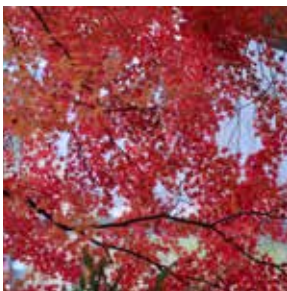


わたしのまちの **とっておき** 文化遺産！

犬山たび

産業の巻



犬山市文化遺産活用実行委員会



犬山たび 産業の巻

目次

名勝木曾川	三
犬山橋	四
吉田初三郎と画室	五
桃太郎神社	七
木曾川鶉飼い	八
モノレール跡	九
日本モンキーセンター、日本モンキーパーク	十
犬山焼	十一
犬山焼窯元	十三
丸山古窯群	十五
今井焼	十六
善師野のマンガン鉱、栗栖の鉱山	十七
イカ石（善師野石）	十八
犬山市内地図	十九、二十
犬山市内の観光スポット一覧	二十一
引用・参考文献一覧、たびにオススメの資料	二十二

たびの案内人

犬山モモ次郎



く
く
ス
キ
ギ
ス
丸



モモ次郎と仲良しの雉。好きな食べ物はカレーライス。畑で採れた野菜を一杯入れた栄養満点のカレーは絶品。

その昔、桃太郎と一緒に鬼退治に出かけた勇敢なわんこ。犬山の「田楽」が大好き。あつあつのうちに食べるのが好き。お肉は苦手。

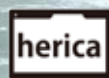






名勝木曾川

ドイツのライン川を髣髴とさせる景観



木曾川の景観

日本八景に
数えられる渓谷美

犬山の北部を流れる木曾川は、大正期に地理学者の志賀重昂しがしげたかが犬山城下の木曾川を散策したとき、その景観をみてドイツのライン川を思い出したことから「日本ライン」ともよばれています。かつては「日本ライン下り」として飛騨木曾川国定公園の日本八景に数えられる渓谷美を堪能できる遊覧コースが組まれていました。現在は春の桜、初夏の新緑、秋の紅葉など季節ごとに木曾川の風景を楽しめます。





犬山橋

いぬやまばし

名勝 木曾川 関連



● 頑丈なトラス構造



● 建設当初の犬山橋



● 犬山橋 (鉄道橋)

犬山橋は、愛知県の犬山と岐阜県の鵜沼を結ぶ全長223メートルの鉄道橋です。大正14年(1925)に建設されました。建設当初は道路と鉄道の共用橋でしたが、やがて交通量が多くなると鉄道橋に並んで道路橋が建設されました。

平成12年(2000)に開通した道路橋は愛称を「ツインブリッジ」といい、4車線とバルコニーを備えた歩道があります。バルコニーに立つと、下流側に犬山城と、城に相對するようにそびえる伊木山が見られます。6月上旬には木曾川に幾艘かの鶴飼い舟が浮かび、夏の風物詩となっています。



橋の上から眺める
木曾川の景観



よしだ はつさぶろう
吉田初三郎
 と画室がしつ
 名勝 木曾川関連



木曾川を盛り上げたい！
 熱い男達の思い

桃太郎神社が現在の姿となったのは、昭和に入ってからのことです。元々の姿は桃山の麓にあった小さな子守社こもりしゃで、地域の子どもの守り神として古くから信仰を集めていたそうです。昭和5年（1930）、この子守社を現在の地に移転し、「桃太郎神社」は誕生しました。

この桃太郎神社移転の背景には、地元を盛り上げるために奔走した熱い男達がいきました。栗栖村の総代であった川治宗一かわじそういちと仙石森吉せんごくもりよし、当時栗栖小学校の校長先生で、ご意見番として協力した奥村政寿、そして当時



桃太郎神社拜殿

鳥瞰図はうきやうず絵師として人気であった吉田初三郎よしだ はつさぶろうです。彼らは、犬山周辺の「日本ライン」と称される木曾川沿岸の地域に、桃太郎伝説にまつわる地名や場所が数多く存在することに気がつき、犬山の地を桃太郎で売り出すことを考えつきます。そして、吉田初三郎は「桃太郎養祥伝説地に関する一考察」という著書の中で、桃太郎の生誕地は犬山であると主張し、桃太郎伝説で犬山を盛り上げるプロジェクトを開始するのです。川治宗一が私財を投じたこともあって、「桃太郎神社」創設は現実のものとなり、川治はその初代宮司、仙石森吉は初代神官となりました。



桃太郎と犬・猿・キジの像



猿の像





鳥瞰図と初三郎

吉田初三郎は明治17年（1884）、京都市で生まれ、10代の時に友禅図案絵師の家に奉公し、京都三越の職工となりました。しかし、25歳の時に洋画家を志し、生涯の師となる洋画家の鹿子木孟郎かのこぎたけしに入門します。その後、才能がありながら洋画家としては活動の場に恵まれなかった初三郎は、師の勧めで商業画家に転換しますが、大正3年（1914）、京阪電鉄の貴賓電車内に置かれた作品『京阪電車御案内』が昭和天皇の目にとまり、「奇麗で分かりやすい。」と御嘉賞を賜り、終世このお言葉をモットーに制作に励んだそうです。鳥瞰図作成で自分の終世の仕事にすると心に誓ったとされます。その後、初三郎のもとには、鉄道省や全国の都市、鉄道、ホテルなどから名所鳥瞰図の作成依頼が次々と舞い込むようになります。初三郎の独特の画風は、「初三郎式鳥瞰図」とよばれ、初三郎は「大正広重」と称されるほどになりました。



木曾川の景観



初三郎、栗栖へ

さて、そんな初三郎が数多くの作品を制作する拠点になった場所の一つが、実は犬山・栗栖の地でした。初三郎は大正12年（1923）8月、名古屋鉄道常務・上遠野富之助かどのとみのすけ（のち社長）の招きにより日本ライオンを訪れ、その風光に魅せられました。その後、9月におこった関東大震災において、東京にあった自宅や店を失った初三郎に、上遠野が継鹿つが尾山麓おの日本ライン沿いに建つ蘇江そこう

倶楽部くらぶという建物を提供します。初三郎はそこに「蘇江画室そこうがしつ」というアトリエを設け、創作活動を開始しました。さらにこのアトリエを昭和4年（1929）、不老の滝のそばに移転し、活動を深めていったそうです。現在、蘇江画室の建物は残っていませんが、建物があった場所からは初三郎が愛した美しい木曾川の景色を眺めることができます。

初三郎はまた、大正から昭和初期にかけて、犬山における観光地化の立役者の一人としても活躍しました。昭和2年（1927）の春、新聞社の主催で選定された「日本八景」に日本ライン木曾川が河川の部で1位に入選した裏には、初三郎が審査員に日本ラインの素晴らしさを強く訴えかけたことが大いに影響したともいわれています。さらに、初三郎は桃太郎神社創設にも深く携わっており、今に続く犬山の観光地としての発展に大きく尽力した人物であったといえます。



木曾川をゆく観光船



桃太郎神社

吉田初三郎と
画室関連



桃太郎神社拜殿



桃太郎神社扁額



鳥居と桃太郎の像



桃太郎の像

大山遊園駅から車で北へと走ると5分、栗栖集落の南端に全国的にも珍しい桃形の鳥居を持つ桃太郎神社があります。桃太郎神社はその名の通り、誰もが知る日本のヒーロー、桃から生まれた桃太郎の伝説が息づく神社です。御祭神には、桃太郎とされている大神実命おおかみのみことがお祀りされています。境内には、桃太郎伝説を再現した浅野祥雲あさのしょううん作のコンクリート塑像やお婆さんが洗濯をしたと伝わる洗濯岩などが存在し、桃太郎神社の顔として親しまれています。一度訪れるとその個性的な世界観にんだか病み付きになる・・・そんな不思議な魅力にあふれるスポット、それが桃太郎神社です。

栗栖の桃太郎伝説が
息づく神社



木曾川鵜飼い

名勝 木曾川 関連



鵜



鵜飼い船



鵜匠



三代城主成瀬正親が御料鵜飼として万治2年(1659)に始めた漁業の一つです。
当初は御料鵜飼として確立されながらも、天候や川の状態に左右されることなどから次第に観光化してきました。
昭和60年(1985)に犬山市の無形文化財に指定されました。遊覧鵜飼いとして古の風情を現在に伝えています。



三百五十年の歴史を
持つ木曾川鵜飼い



モノレール跡^{あと}

名勝 木曾川関連



モノレール跡



動物園行きモノレール、
出発！

かつて名古屋鉄道の遊園駅から途中成田山駅を経て日本モンキーパーク内の動物園駅までを、モノレール路線が結んでいました。

昭和37年（1962）に開業してから「犬山モノレール」とも呼ばれて、多くの観光客に親しまれていました。モノレールは車両が「跨座式」と「懸垂式」の2タイプありますが、犬山モノレールは日本初の跨座式でした。利用者数の減少や車両・施設の老朽化のため、惜しまれながら平成20年（2008）12月に営業を終了しました。



跨座式のレール跡



にほん
日本モンキーセンター
日本モンキーパーク

名勝 木曾川 関連



サル類専門の動物園

日本モンキーセンターは世界でも珍しいサル類専門の動物園です。センターの飼育展示種数は、約60種900頭と世界最多を誇ります。展示にも工夫がされており、霊長類の特徴を活かした行動展示やガイドツアーイベントなど、一味ちがった動物園が楽しめます。冬には風物詩となった「たき火にあたるサル」も見られます。



日本モンキーパークの若い太陽の塔

日本モンキーパークでは、岡本太郎作「若い太陽の塔」が見学できます。この塔は昭和45年（1970）の大阪万博のシンボルとなった「太陽の塔」の1年前に制作されたものです。塔の高さは26メートルありますが、途中7メートルの所が展望台となっており、雄大な濃尾平野と木曾川の流れが一望できます。



高さ 15 メートルのビックループ



若い太陽の塔



犬山焼

城主が愛でたやきもの



犬山、伝説の焼き物 謎多き起源

犬山焼は、上本町の島屋宗九郎（しまやそうくろう）という人物によって、文化7年（1810）、丸山新田に開窯されたのが始まりと伝えられています。文化・文政期といえ、国内で町人文化がもつとも花開いた時期。もちろん犬山城下においても、町人達の生活や文化の水準が高いレベルに達していたことはいまでもありません。そんななかで始まった丸山のやきもの生産ですが、残念なことに今日に伝わる創業当時の資料は少なく、開窯当初どんなものが焼かれていたのかは、よくわかっていません。



雲錦手花瓶





初代オーナーは
成瀬様

江戸時代は、陶磁器を生産する権利が厳しく管理されており、現在のようになだれでも自由に窯を運営できなわけではありませんでした。尾張一の窯業生産地であった瀬戸から、丸山窯の営業に対して苦情が寄せられたという記録も残り、そんな状況下でも丸山窯が閉窯することなく活動を続けられたのは、犬山城主成瀬氏の庇護の影響が大きいと考えられています。成瀬家に伝わる古文書の中には、成瀬氏が献上品に犬山焼を使用したという記述もみられ、このやきものに対し、少なからず成瀬氏の関心が向けられていたことがわかります。また、今日犬山焼の代表的意匠にあげられる雲錦手は、七代犬山城主・成瀬正住の意向で描かれはじめたと伝えられています。



雲錦手
ア・ラ・カルト

さて、この春の桜と秋の紅葉をひとつのうつつわに描いてしまう…という大胆な発想の意匠は、京焼によってブランド化されたものですが、犬山では一口に雲錦手といっても、よく見ると、紅葉の色や形が様々で、幾通りものパターンがあるのに気が付きます。犬山において雲錦手の品が長く大量に生産されてきた秘訣は、この多様性にもあるのかも知れません。一体何通りの雲錦手があるのか、数えてみるのも面白いですね。

犬山焼のもう一つの代表的意匠が呉州赤絵写し。呉州赤絵写しは、京焼をはじめ、全国各地でみかける意匠ですが、なかでも犬山赤絵は、筆致が自由闊達で本場中国呉州赤絵に通じる興趣があり、実はかくれたファンが…という話も耳にします。



雲錦手花瓶



華やかな犬山焼の数々





犬いぬ山やま焼やき窯かま元もと

犬山焼関連



今に続く犬山焼の窯元

犬山城主成瀬正寿が文化7年（1810）丸山に開いた窯は、文政年間（19世紀）には犬山藩お庭焼として発展しましたが、幕末になると、藩の斜陽と共に廃窯に瀕（ひん）しました。藩の御用瓦師を務めていた尾関作十郎信業は、陶窯を改築する、陶工を選ぶ、陶土を精選するなど工夫に工夫を重ねて犬山焼を復興させました。以降尾関窯はその志を受け継ぎ、犬山焼の本窯元として今日に至っています。

犬山市内には今でも尾関作十郎陶房、後藤陶逸陶苑、大澤久次郎陶苑の3軒の窯元が続いています。



後藤陶逸陶苑





🔥 乾燥・絵付作業



🔥 個性的な意匠が楽しい犬山焼



🔥 尾関作十郎陶房





丸山古窯群

まるやまこようぐん

犬山焼関連



犬山焼の歴史

犬山焼は、文化7年（1810）に、島屋宗九郎が旧余坂村丸山で創業しました。残念ながら、創業時期の資料は残っておらず、どのような作品を焼いていたのかは分かっていません。この丸山窯は、犬山の城主である成瀬家のお庭焼として保護を受け、その後大島暉意に譲り受けられ、京都や上志段味村などから陶工が招かれました。

丸山窯は天保初年（1830）頃に商売上の理由から一度廃業しますが、時の城主成瀬正寿により再興を遂げました。この頃赤絵付けや雲錦手意匠が描かれるなど、現在の犬山焼を特徴づける技法が取り入れられました。

丸山窯は白山平山南側に展開し、その窯跡は昭和55年（1980）に発掘調査が実施され、4〜5基の窯跡が見つかっています。



丸山古窯周辺で発見された陶片



丸山古窯周辺で発見された陶片





今井焼

犬山焼関連



宮ヶ洞の雑木林

宮ヶ洞古窯は、江戸時代中期に今井焼を焼いた窯として知られ、宝暦年間（1751～1763）に、今井村の奥村伝三郎が築いたともいわれています。今井焼は、鉄釉や灰釉が施された美濃系の焼き物で、一部の作品に「犬山」の押印がみられるのが特徴です。窯跡周辺では陶片などが採取されており、数基の窯跡があると考えられていますが、発掘調査は行われていません。



幻のやきもの 宮ヶ洞の今井焼



「犬山」の押印



宮ヶ洞古窯周辺で発見された碗類

栗栖の鉱山

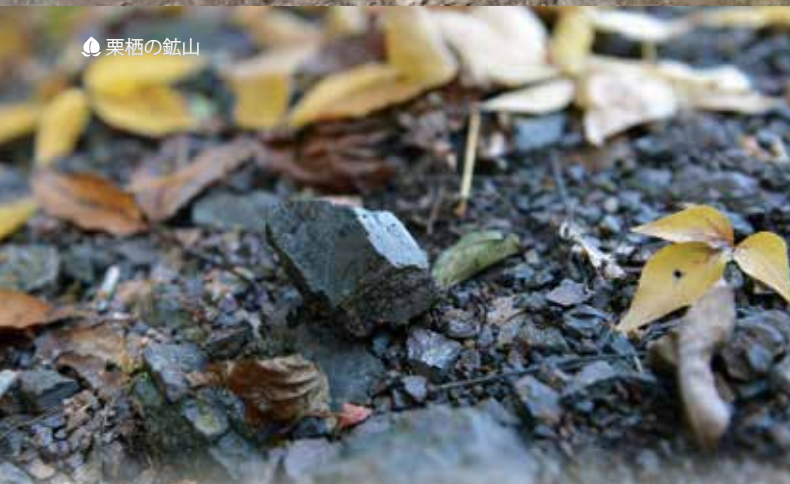


善師野のマンガン鉱



善師野のマンガン鉱・栗栖の鉱山

栗栖の鉱山



善師野のマンガン鉱



マンガン、亜炭がとれた
善師野の鉱山

善師野は、「善師野石」の他にも、電池などの材料になった「マンガン」や、家庭用の燃料として使われていた「亜炭」がとれる場所でもありました。郷土史研究家の前田四郎によると、マンガン鉱山は善師野の伏屋地内、亜炭鉱山は向野地内にあつたそうです。鉱山の入り口は今は草に覆われてしまい、見つかりにくい場所になってしまっています。第二次世界大戦前までは操業を行っており、トラックが普及していない頃はリヤカーを使ってマンガンを運んでいたとのこと。



今はひっそりと
栗栖、不思議な鉱山跡

栗栖鉱山は、栗栖北部の木曾川沿岸に残るマンガンの鉱床です。昭和前半、周辺地域のマンガン鉱床の中でも多量の出鉱量を誇る鉱床でした。

現在でも複数の露天掘りや坑道掘りの跡が残っています。

栗栖鉱山は、昭和13年（1938）に開発され、昭和30年代末頃までは稼働していたようです。採掘されたマンガンは、木曾川上空に架かるロープウェイによって対岸の坂祝町へと運ばれ、坂祝駅より出荷されていました。現在、栗栖遊歩道の川平ルート沿いにある坑道は、唯一見学することができます。

イカ石 (善師野石)



善師野めくるめく石の世界

犬山市善師野から可児市帷子^{かたひら}付近は、「イカ石」または「善師野石」と呼ばれる石が採れる場所です。江戸時代の終り頃には犬山土産として『尾張名所図会』という書物でも紹介しています。この本によると、善師野石は、生活用品の竈や火鉢、神社やお寺にある灯籠などに加工されて、売られていたとのこと。善師野石が、別名「竈石」と呼ばれるようになった理由は、このことに由来すると思われる。

善師野石は石質が柔らかく、加工することが比較的簡単な石です。それゆえ、いろいろなモノを作る材料として重宝されたと考えられます。『尾張名所図会』や、元和元年（1864）に完成した『犬山視聞図会』によると、当時の人々は善師野宿から東へ5、6町入った寺洞という現在の「四季の丘」付近の場所で石を切り出して加工し、それを人間や馬の力で犬山に運んで販売したそうです。また、さらに古い時代には、木曾川中流域にある古墳の石棺にも使われていたことが確認されています。



熊野神社の狛犬



熊野神社の燈籠



熊野神社境内の祠



善師野の石切場

犬山市内



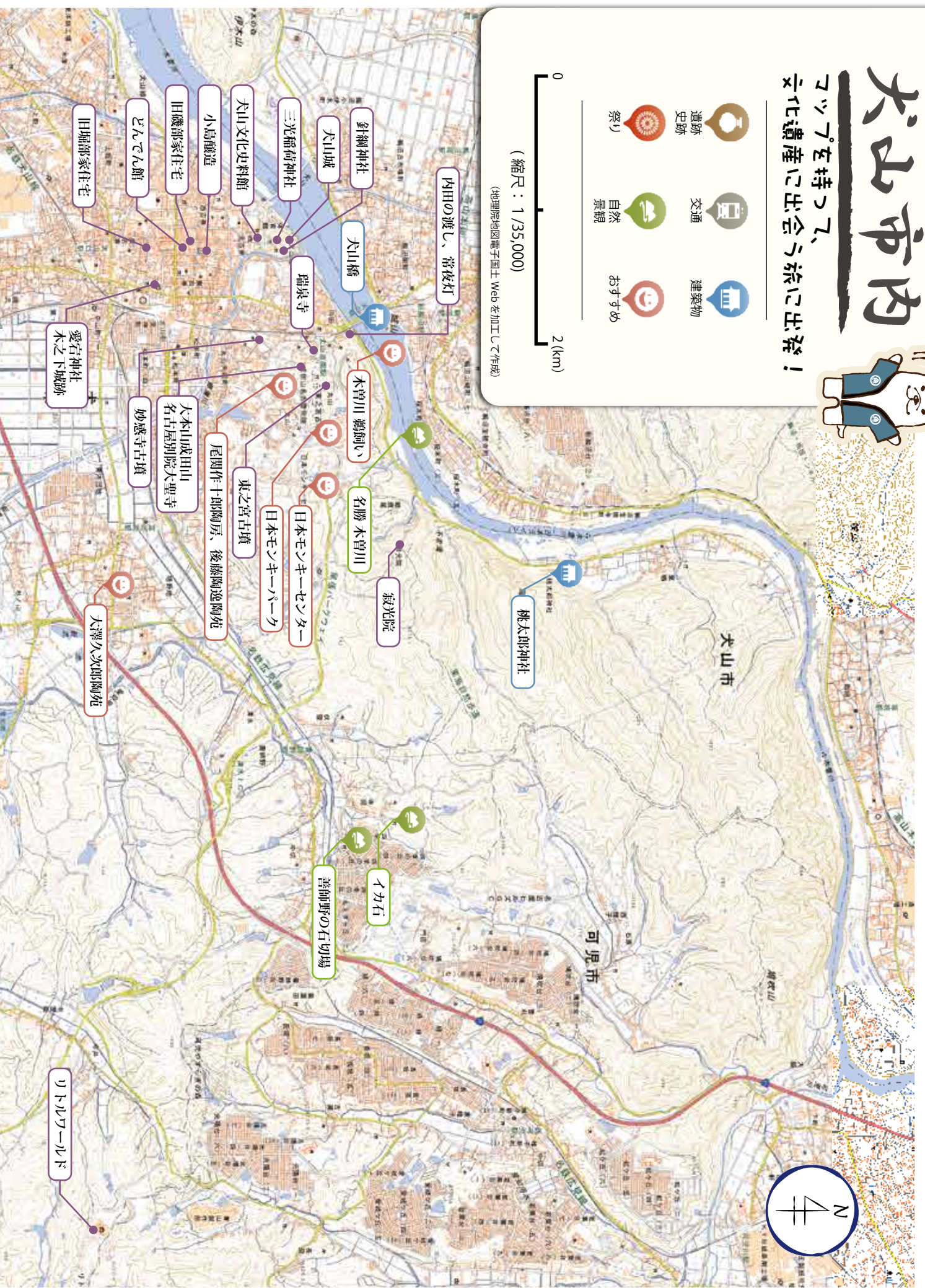
コップを持って、
文化遺産に出会う旅に出発！

-  遺跡 史跡
-  交通
-  建築物
-  祭り
-  自然 景観
-  おすすめ

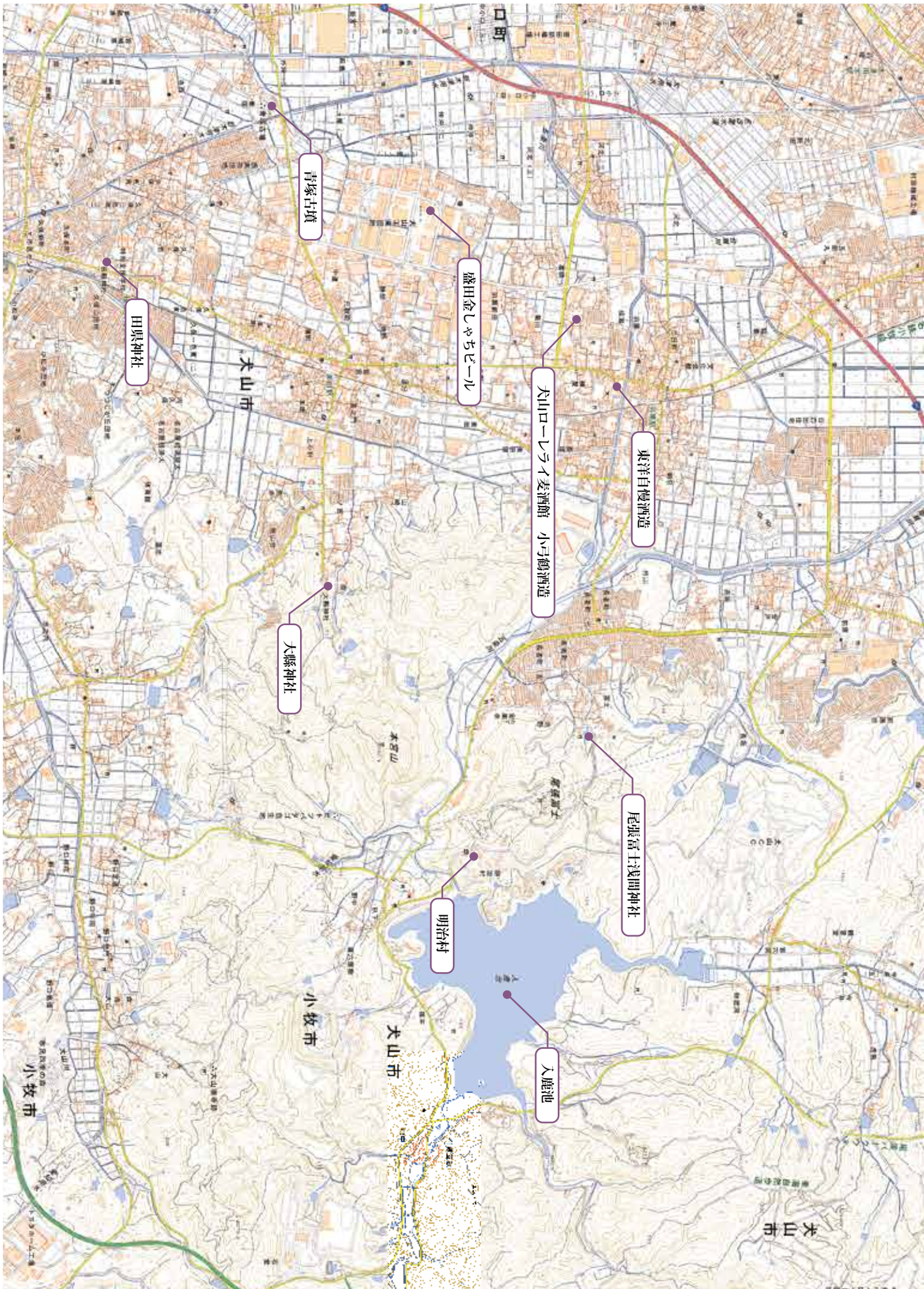
0
2 (km)

(縮尺：1/35,000)

(地理院地図電子国土 Web を加工して作成)



- 内田の渡し、菅夜灯
- 針綱神社
- 犬山城
- 三光稲荷神社
- 犬山文化史料館
- 小島醸造
- 旧磯部家住宅
- どんでん館
- 旧堀部家住宅
- 瑞泉寺
- 木曾川 鱈釣り
- 名勝 木曾川
- 猿渡院
- 桃太郎神社
- 東之宮古墳
- 日本モンキーセンター
- 日本モンキーパーク
- 尾関作十郎御房、後藤陶逸陶苑
- 大本山成田山 名古屋別院大聖寺
- 妙感寺古墳
- 大澤久次郎陶苑
- イカ石
- 善師野の石切場
- リトルワールド
- 愛宕神社 木之下城跡



青塚古墳

田泉神社

盛田金しゃちビール

犬山ローレンイ麦酒館 小弓鶴酒造

東洋自慢酒造

大縣神社

尾張富士浅間神社

明治村

入鹿池



犬山市内の観光スポット一覧

番号	スポット名	アクセス	開館時間
1	栗栖の渡し	犬山コミュニティバス栗栖・富岡線「栗栖北」	—
2	緋鹿尾観音寂光院	犬山コミュニティバス栗栖・富岡線「寂光院口」	8:00～17:00
3	内田の渡し 常夜灯	名鉄「犬山遊園駅」よりすぐ	—
4	瑞泉寺	名鉄「犬山遊園駅」東口より徒歩3分	—
5	大本山成田山名古屋別院大聖寺	名鉄「犬山遊園駅」東口より徒歩約5分	—
6	東之宮古墳	名鉄「犬山遊園駅」東口より徒歩約20分	—
7	尾関作十郎陶房	犬山コミュニティバス栗栖・富岡線「サンパーク犬山」より徒歩約10分	—
8	後藤陶逸陶苑	犬山駅より名鉄バス「モンキーパーク」バス停下車徒歩1分	9:00-19:00
9	大澤久次郎陶苑	名鉄広美線「富岡駅」下車徒歩8分	9:00-19:00(不定休)
10	妙感寺古墳	名鉄「犬山駅」東口より徒歩約10分	—
11	犬山城	名鉄「犬山遊園駅」西口より徒歩約15分	9:00-17:00(入場は16:30まで) 12/29-31休み
12	針綱神社	名鉄「犬山遊園駅」西口より徒歩約12分	—
13	三光稲荷神社	名鉄「犬山遊園駅」西口より徒歩約12分	—
14	犬山市文化史料館	名鉄「犬山駅」西口より徒歩約15分	9:00-17:00(入館は16:30まで) 12/29-31休み
15	どんでん館	名鉄「犬山駅」西口より徒歩約10分	9:00-17:00(入館は16:30まで) 12/29-31休み
16	旧磯部家住宅	名鉄「犬山駅」西口より徒歩約10分	9:00-17:00(入館は16:30まで) 12/29-31休み
17	旧堀部家住宅	名鉄「犬山口駅」北口より徒歩約8分	10:00-16:00 月・火曜定休(祝日の場合は営業し翌日休業)冬期休館期間あり
18	愛宕神社・木ノ下城跡	名鉄「犬山駅」西口より徒歩約5分	—
19	犬山ローレライ麦酒館(小弓鶴)	名鉄「羽黒駅」より徒歩約15分	11:30-15:00(L014:00) 17:00-22:00(L021:00)
20	盛田金しゃちビール株式会社	—	—
21	小島醸造	名鉄「犬山駅」西口より徒歩約10分	10:00-17:00(不定休)
22	東洋自慢酒造	名鉄「羽黒駅」より徒歩約8分	—
23	野外民族博物館リトルワールド	犬山駅東口岐阜バス「リトルワールド」下車	9:30-17:00 ※季節・曜日により変動
24	博物館明治村	犬山駅東口岐阜バス「明治村」下車	9:30-17:00 ※季節・曜日により変動
25	入鹿池	犬山コミュニティバス入鹿・羽黒線「羽黒駅」乗車「神尾」または「入鹿」下車	—
26	尾張富士浅間神社	犬山コミュニティバス入鹿・羽黒線「富士」下車	—
27	青塚古墳	犬山コミュニティバス楽田西部線「青塚公民館」下車	月曜定休 (祝日の場合は営業し翌日休み)と 年末年始
28	大縣神社	犬山コミュニティバス楽田東部線「大縣神社」下車	—



引用・参考文献一覧 (全巻共通)

- 愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし』 犬山市役所 1983
 愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし 第2集』 犬山市役所 1987
 愛知県犬山市役所 『犬山ものがたり』 犬山市役所 2004
 愛知県教育委員会 『中世城跡調査報告書1』 愛知県教育委員会 1991
 愛知県史蹟名勝天然記念物調査会 『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告 第10 史蹟其八 名勝其四 天然記念物其十』 愛知県 1927
 愛知県史編さん委員会 『愛知県史 資料編4 考古4』 愛知県 2010
 愛知県史編さん委員会 『愛知県史 別編 自然』 愛知県 2010
 犬山市エコアップリーダー 『犬山の巨樹・古木50選』 巨樹巨木調査グループ 2004
 犬山市教育委員会 『犬山市の文化財』 犬山市教育委員会 1993
 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 史料編3 考古 古代・中世』 犬山市 1983
 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 別巻文化財・民俗』 犬山市 1985
 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 通史編上』 犬山市 1997
 犬山市教育委員会 『全市博物館構想 市民が創る生涯学習のまち』 犬山市教育委員会 2002
 犬山市教育委員会 『犬山城総合調査報告書』 犬山市教育委員会 2017
 犬山城白帝文庫歴史文化館 『図説 犬山城』 公益財団法人犬山城白帝文庫 2014
 木曾川学研究協議会 『木曾川とともに歩んだ各務原 犬山 岐南 笠松』 木曾川学研究協議会 2010
 佐藤重造・横山住雄 『各務原の歴史散歩』 石亀神社 1986
 横山住雄 『犬山の歴史散歩』 1991



たびにオススメの資料

犬山城下町について

『犬山城下町マップ』 犬山城下町の詳細マップ。犬山祭を見学する際は、携帯していると便利です。犬山観光案内所などで配布。

文化遺産カードについて：文中に、herica マークがついているものは、「文化遺産カード」がある文化遺産です。文化遺産を訪れてカードをたくさん集めましょう！
 ・「名勝 木曾川」「桃太郎神社」... 配布場所：青塚古墳ガイダンス施設 ※詳細は下記をご参照ください。

文化遺産を訪れて、カードを集めよう！
文化遺産カード

HP(<http://herica.net>)

犬山の最新情報を HP でチェック！
犬山文化遺産ナビ

文化遺産カードの楽しみかた

①文化遺産をたずねて写真を撮ろう。
 それぞれの地域に、様々な文化遺産が残っています。「カード1枚」に載っている文化遺産をたずねてみましょう。

②写真をもって、配布場所までカードをもらおう。
 撮影した写真（デジタルカメラ、ケータイの画像でもOK）を持って、「配布場所1枚」の赤カード配布場所へ行き、「文化遺産カードをください」と伝えて下さい。

③たくさん集めて、特製バインダーにカードをコレクションしよう。
 たずねた文化遺産を、いつでも手元でチェックできます。特製バインダーについては「バインダー」をご参照ください。

スマートフォンで文化遺産や史跡めぐり
犬山たび

文化遺産ナビとは、スマートフォンで利用できる犬山の文化遺産ナビシステムアプリです。どこにどんな文化遺産があるのか、またどんな方法で訪れればいいのか、簡単に調べる事ができます。

リストモード マップモード

「犬山文化遺産ナビとは」

犬山市は愛知県の北西部にある豊かな自然や多くの文化遺産が残る地域です。犬山文化遺産ナビでは、犬山の魅力がわかるモデルコースや、見どころスポットをお伝えします。また、犬山市に伝わる物語もアニメでお楽しみいただけます。

犬山たび 「産業の巻」

発行年

平成31年3月22日

発行

犬山市文化遺産活用実行委員会(犬山市教育委員会)
 〒484-8501

愛知県犬山市大字犬山字東畑36 犬山市役所

企画・編集

ナカシャクリエイテブ株式会社
 〒468-8533 名古屋市天白区井の森町205番地

【編集協力】

特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

【写真協力】

中野耕司

※本書の内容、テキスト、画像の無断転載、無断転用を禁止します。

犬山たび 全6巻

「祭の巻」「街道の巻」「城・古戦場の巻」

「古墳の巻」「物語の巻」「産業の巻」





犬山たむ